生涯スポーツの推進役として期待される総合型地域スポーツクラブが、京都府内で増えている。同クラブは「多種目、多世代、多志向」を掲げ、幅広い世代がニーズに応じて多様なスポーツを楽しむのが特色だ。このほど決まった京都府の今後十年間のスポーツ振興計画でも、その育成を柱に「生涯スポーツ社会」づくりを目指している。だが、クラブが広く根を張るには住民の理解がまだまだ必要で、活動拠点の確保など課題も多い。

総合型地域スポーツクラブは、年齢や技術レベルに応じて継続的にスポーツ活動ができる場として、国が二〇一〇年までに各市町村で最低一つの設置を目指している。府内では現在、七市町計九のクラブが活動を始めている。

取材ノートから

総合型地域スポーツクラブ

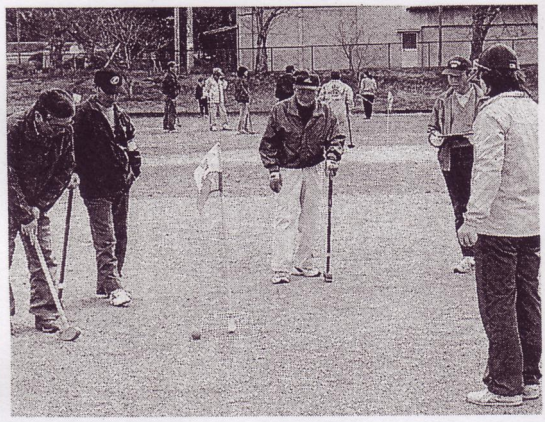
住民意識の高まり期待

文化報道部 広中 孝至

その一つ、日吉町の「ひよし総合型地域スポーツクラブ」では、ある日曜日の午後、同町の球技場で会員約二十人がグラウンドゴルフを楽しんでいた。四十～八十代の男女が自前のクラブを手に一打ごとに声を弾ませ、プレーに熱中している。放課後の校庭を思い起こさせるような和やかな雰囲気だ。

コンビニ感覚で参加

同クラブは一九九六年、町内のスポーツサークルを母体に発足した。「多種目」を掲げるクラブらしく、バドミントン、卓球、ボウリングなど少人数でもできる七競技を活動メニューに取り入れている。会員は百六十八人で、年会費千円のほか一回の活動に百円の参加料を払っている。行政のスポーツ教室と違い、受益者負担が原則だ。



「ひよし総合型地域スポーツクラブ」でグラウンドゴルフを楽しむ住民たち。スポーツを通じ地域での交流も深めている（京都府日吉町・広野球技場）

複数の競技に参加する会員も多く、川隅富士夫代表（六八）は「楽しむことが原点。スポーツに縁がなかった人でも気軽にスポーツに接することができるコンビニみたいなもの」とクラブの目的を話す。学校のクラブ活動とは別の競技に取り組む高校生や、かつての競技歴を生かして指導役に回る元国体選手もいる。定年を機に入会した中村隆一さん（七三）は「若いもんのエキスを吸えるのがうれしい」と、世代を超えた交流を楽しんでいる。

高齢社会の到来で、心身の健康を保つ生涯スポーツの重要性が高まっている。地域でどうクラブを育てていくのか。同クラブでは、会員向けの定期活動のほか、町主催のスポーツ教室の開催を請け負うなどスポーツを通じた地域活動も盛んだ。

昨年四月には、府内のクラブで初めてNPO（特定非営利活動）資格も取得した。川隅代表は「地域住民がクラブの存在意義を理解し、会員みんなが自分たちのクラブ、という意識を持てることが大切」と強調する。

既存団体と連携急務

長岡京市では昨年五月から「長岡第七小学校区総合型地域スポーツクラブ」が活動を始めた。地域的なつながりが深い小学校区をベースに個人会員約九十人とスポーツ少年団や社会体育振興連合会など計二十一団体が加盟、年間百回を超す活動を行っている。

都市部のクラブではグラウンドなど活動拠点の確保が大きな課題だ。同小学校区には学校施設拠点の既存スポーツクラブが十八もあり、他クラブとの施設利用の調整は欠かせない。中島精一会長は「みんなで一緒にやっていこうという機運を高めなければ」と話す。既存のスポーツ団体との幅広い協力関係をどう築くのか。連携を模索する中から、スポーツを通じた地域交流の高まりも期待できそうだ。